

清 監 査 号  
令 和 2 年 7 月 1 7 日

清水町長 阿 部 一 男 様

清水町監査委員 渡 辺 富 士 雄



清水町監査委員 西 山 輝 和



令和元年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和元年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算について、審査した結果を次のとおり報告する。

記

1. 審査の対象

- (1) 令和元年度清水町水道事業会計
- (2) 令和元年度清水町下水道事業会計

2. 審査の時期

令和2年6月22日

3. 審査の方法

決算の審査は、令和2年5月29日付けをもって審査に付された令和元年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算書について、予算書、決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表及び関係諸帳簿並びに証拠書類について計数と内容の精査を行うとともに、水道事業及び下水道事業の経営と財政の状態について審査した。

また、担当職員の説明を聴取する方法により、予算の執行及び事務処理について審査を実施した。



#### 4. 決算の状況

##### 【水道事業会計】

##### (1) 収益的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	292,434,000	278,012,000	14,422,000	
決算額(税込)	293,124,712	272,007,021	21,117,691	
決算額(税抜)	277,552,024	264,918,472	12,633,552	
執行率(税込)	100.24	97.84		

##### (2) 資本的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	121,730,000	181,744,000	-60,014,000	
決算額(税込)	121,730,560	180,202,081	-58,471,521	
決算額(税抜)	121,730,560	169,291,345	-47,560,785	
執行率(税込)	100.00	99.15		

##### 注1) 財源補填内訳

○ 過年度分損益勘定留保資金	52,414,697 円	
○ 当年度分消費税資本的収支調整額	6,056,824 円	(3条予算で費用化)
合 計	58,471,521 円	

##### 【下水道事業会計】

##### (1) 収益的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	336,835,000	308,125,000	28,710,000	
決算額(税込)	337,012,158	299,998,445	37,013,713	
決算額(税抜)	327,047,136	292,102,739	34,944,397	
執行率(税込)	100.05	97.36		

## (2) 資本的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	73,096,000	166,400,000	-93,304,000	
決算額(税込)	72,732,690	163,864,744	-91,132,054	
決算額(税抜)	72,732,690	158,888,237	-86,155,547	
執行率(税込)	99.50	98.48		

## 注2) 財源補填内訳

○ 過年度分損益勘定留保資金	90,020,179 円	
○ 当年度分消費税資本的収支調整額	1,111,875 円	(3条予算で費用化)
合 計	91,132,054 円	

## 5. 未収金の状況

## 【水道事業会計】

## (1) 水道料金収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	不納欠損前 収 納 率	備 考
現年度分	189,517,790	187,159,050	0	2,358,740	98.76	前年度比 -0.03 ポイント
過年度分	4,312,780	2,388,880	0	1,923,900	55.39	前年度比 +4.68 ポイント
合 計	193,830,570	189,547,930	0	4,282,640	97.79	前年度比 +0.07 ポイント

## (2) その他使用料及び手数料等収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	備 考
R元年度分 その他雑収益	62,925	0	0	62,925	水道メーター売払代金(R2.4.1収入済)
H24年度分 使 用 料	1,000	0	0	1,000	看板設置用地使用料

【下水道事業会計】

(1) 下水道料金収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	不納欠損前 収 納 率	備 考
公共下水道 現年度分	95,837,178	95,299,478	0	537,700	99.44	前年度比 +0.05 ポイント
公共下水道 過年度分	713,270	621,350	53,920	38,000	87.11	前年度比 +7.48 ポイント
集落排水 現年度分	29,270,884	29,104,254	0	166,630	99.43	前年度比 +0.17 ポイント
集落排水 過年度分	440,760	389,560	1,900	49,300	88.38	前年度比 +30.46 ポイント
合 計	126,262,092	125,414,642	55,820	791,630	99.33	前年度比 +0.27 ポイント

(2) その他使用料及び手数料等収納状況

未収金なし

6. 過去5年間の年間総配水量(総処理水量)・有収水量及び有収率の状況

【水道事業会計】

区 分	総配水量(m <sup>3</sup> )	有収水量(m <sup>3</sup> )	有収率(%)	備 考
平成27年度	1,441,810	1,243,680	86.26	
平成28年度	1,344,400	1,150,707	85.59	
平成29年度	1,509,206	1,202,545	79.68	
平成30年度	1,652,078	1,205,772	72.99	
令和元年度	1,646,121	1,247,850	75.81	

【下水道事業会計】

区 分	総処理水量(m <sup>3</sup> )	有収水量(m <sup>3</sup> )	有収率(%)	備 考
平成27年度	950,074	667,961	70.31	
平成28年度	1,139,734	607,922	53.34	
平成29年度	948,892	651,851	68.70	
平成30年度	1,086,641	639,882	58.89	
令和元年度	1,015,168	636,179	62.67	

7. 過去5年間の企業債の状況

【水道事業会計】

区 分	企 業 債 償 還 金 元	企 業 債 償 還 子 利	企 業 債 残 高	備 考
平成27年度	67,509,615	13,819,178	787,659,373	借入額 39,900,000
平成28年度	64,504,060	12,808,420	777,855,313	借入額 54,700,000
平成29年度	60,261,193	11,959,969	827,894,120	借入額 110,300,000
平成30年度	56,464,830	11,390,273	882,729,290	借入額 111,300,000
令和元年度	54,892,245	10,825,518	903,037,045	借入額 75,200,000

【下水道事業会計】

区 分	企 業 債 償 還 金 元	企 業 債 償 還 子 利	企 業 債 残 高	備 考
平成27年度	203,515,756	20,239,658	898,843,883	借入額 23,700,000
平成28年度	175,818,567	16,577,367	760,325,316	借入額 37,300,000
平成29年度	157,155,290	13,304,680	629,270,026	借入額 26,100,000
平成30年度	123,216,328	10,457,978	545,953,698	借入額 39,900,000
令和元年度	107,673,967	8,116,107	458,879,731	借入額 20,600,000

8. 審査の結果(総括意見)

決算報告書及び財務諸表は、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成され、適正に処理されている。

また、計数は令和2年3月31日現在における財政状況及び経営成績を適正に表示されているものと認められた。

## 9. 個別意見

### 【水道事業会計】

(1) 収益的収支では、事業収益は277,552,024円で、前年度と比較して792,437円減少し、このうち水道料金である給水収益は174,393,224円となり、2,777,850円の増加となった。事業費用は264,918,472円で、前年度と比較して11,763,447円の減少となった。当年度純利益については12,633,552円となり、前年度と比較して10,971,010円の増加となったが、主な原因としては、給水収益の増加や配水管に係る修繕費や人件費が減少したことによるものである。

資本的収支では、給水区域内の管路網の更新整備及び浄水場の機器更新を年次的に進めており、令和元年度は老朽管更新として、道路工事に伴う配水管の布設替等を1,029.50メートル実施している。このうち、平成27年度から着手している浄水場から病院や公共施設などの重要給水施設へ安定的に給水が可能になるよう、主要管路を耐震性のあるものに更新する事業については、令和元年度には553.81メートルの更新を行っている。また、浄水場計装機器の更新も行っている。

今後の見通しは、収益的収支においては給水区域内の普及率が97%を超えていることや、給水区域内の人口の減少などにより、使用水量の減少が見込まれることから、今後においても効率的な経営に努力願いたい。

(2) 有収率は75.81%と前年度より2.82ポイントの増となっている。今後においても、今以上に有収率を低下させないよう計画的な漏水対策に努めること。

(3) 水道料金の未収金額は、4,282,640円で、前年度と比較して30,140円の減となっている。収納率は現年度分で98.76%で、前年度と比べて0.03ポイント減少しており、過年度分の収納率は4.68ポイントの増加となっている。

給水停止実施要領に基づいて、滞納者との折衝を効果的に行い、滞納者との早期からの関わりと、分納誓約などにより滞納者との折衝を増やすことによって更に未収金が減少することを目標に取り組んでもらいたい。公平な受益者負担を保つために今後においても一層の努力を求める。

以上、審査の結果について意見を述べたが、施設の効率的な維持管理に万全を期して安全で良質な水道水を安定供給し、町民生活の向上と福祉の増進に貢献するため、合理的で健全な経営を期待するものである。

## 【下水道事業会計】

(1) 収益的収支では、事業収益が327,047,136円で、このうち下水道使用料収入は115,143,040円、一般会計からの補助金等が120,608,000円となっている。事業費用は292,102,739円で、当期純利益は34,944,397円となった。

資本的収支では、収入が72,732,690円、支出が163,864,744円となり、支出に対し不足する額91,132,054円は、当年度分消費税資本的収支調整額1,111,875円、過年度分損益勘定留保資金90,020,179円で補てんしている。

資本的収支については、集落排水事業で平成25年度から国庫補助事業を活用し公共枿やマンホールの更新による不明水対策及び排水処理場の機器更新を進めてきたが、本年度で事業終了となった。令和2年度からは、公共下水道事業で国庫補助事業を活用し管渠及び終末処理場の更新を進めていくとのことである。

令和元年度末時点での処理区域内人口は6,792人で、前年度と比較し90人の減、水洗便所設置済み人口は6,622人で、前年度と比較し81人の減となった。今後の見通しは、収益的収支においては区域内の水洗便所設置率が97%を超えていることや、処理区域内の人口の減少などにより、排水量の減少が見込まれ、さらには、施設の維持管理や更新整備が必要とされるため、今後においても効率的な経営に努力願いたい。

(2) 年間総処理水量は1,015,168立方メートルで、前年度と比較して71,473立方メートル減少し、有収水量は636,179立方メートルで、前年度と比較して3,703立方メートル減少した。年間総処理水量を事業別に見ると、公共下水道事業で前年度と比較して50,555立方メートル減少し、集落排水事業でも前年度と比較して20,918立方メートル減少した。引き続き、不明水進入防止対策などを計画的に進め、より一層改善を図られたい。

(3) 下水道料金の未収金額については、公共下水道事業575,700円、集落排水事業215,930円であり、それぞれ137,570円、224,830円の減となっている。水道事業会計と同様に、滞納者との折衝を効果的に行い、滞納者との早期からの関わりと、分納誓約などにより滞納者との折衝を増やすことによって更に未収金が減少することを目標に取り組んでももらいたい。公平な受益者負担を保つために今後においても一層の努力を求める。

以上、審査の結果について意見を述べたが、施設の効率的な維持管理と計画的な更新を行い、生活排水と雨水の安定処理を行い、快適で良好な生活環境を維持していくために、合理的で健全な経営を期待するものである。